かちまいスポーツ

来季の道東リーグ昇格を決めた帯広蹴球団

帯広蹴球団道東リーグ昇格

道リーグサッカー　入れ替え戦で釧路市役所に勝利

【釧路】サッカーの道リーグ道東ブロックリーグ参入戦が26日、釧路市陸上競技場で行われ、帯広地区代表の帯広蹴球団（帯広1部1位）が釧路地区代表の釧路市役所（道東3位）を2―0で破り、来季の道東リーグ昇格を決めた。来季の道東リーグは、R・シュペルブ釧路（道リーグ6位・降格）、とかちフェアスカイジェネシス（道東1位）、マルセイズFC（同2位）、別海サッカークラブ（根室・道東5位）、FC・COSMIC（網走・道東6位）、帯広蹴球団の6チームで実施される。

帯広蹴球団 2（1―0、1―0）0 釧路市役所

▽得点者【帯】①清水康②西川敦②藤井亮平→佐藤寿俊

チャレンジャー精神で戦う

帯広蹴球団の村田光啓監督の話　1年間通して厳しい戦いだったが、選手たちは目標に向かってよくやってくれた。また、今回釧路への移動のバスで配慮していただいた帯広観光をはじめ、選手が勤める企業にも感謝したい。喜びの中にも選手たちはこれからが勝負という気持ちを持ってくれている。道東ではチャレンジャー精神で1戦1戦大事に戦っていきたい。

ジュニアオリンピック陸上

走り幅跳び増子18位

十河は砲丸投げ44位

陸上競技の第39回ジュニアオリンピック大会（日本陸上競技連盟主催）が24―26の3日間、横浜市の日産スタジアムで行われた。十勝から出場した男子A（14歳以上15歳未満）八百㍍の松木智雅（緑南）は予選敗退、女子B（13歳以上14歳未満）砲丸投げの十河由衣（池田）は44位、同C（13歳未満）百㍍障害の田中芽衣（帯南町）は準決勝で敗退、同走り幅跳びの増子詩織（帯八）は18位だった。なお、北京五輪女子百㍍代表の福島千里（北海道ハイテクAC―帯南商高出）が今大会のプレゼンテーターを務めた。

【男子】＜A＞◇八百㍍▽予選1組＝⑦松木智雅（緑南）2分2秒54

【女子】＜B＞◇砲丸投げ▽決勝＝㊹十河由衣（池田）9㍍16

＜C＞◇百㍍障害▽予選3組＝③田中芽衣（帯南町）16秒44▽準決勝◇走り幅跳び子詩織（帯八）

【B女子砲丸投げ決勝】9㍍16の投てきを見せた十河由衣（池田中、大賀章好カメラマン撮影）

【C女子走り幅跳び決勝】4㍍81で18位に入った増子詩織（帯八中、大賀章好カメラマン撮影）

陸上日本選手権

木田、横浜市の日産スタジアムで

陸上競技の第92回日本選手権リレー競技連盟主催）が横浜市の日産スタジアムで行われ、女子千メートルに木田真有（26）＝南商高出＝がエントリーされた。

記録の速報　写真がほし

全日本杖道大会　初段の部

全十勝剣道連盟杖道部会

田村、三戸部組優秀賞

緊迫感あふれるけいこを繰り返す田村（左）と三戸部良太

第35回全日本杖道（じょうどう）大会（全日本剣道連盟主催）がこのほど、東京・巣鴨学園ギムナシオンで行われ、初段の部に初出場した全十勝剣道連盟杖道部会（鈴木清志部会長）の田村浩志（49）・三戸部良太（25）組が優勝に相当する優秀賞を受賞した。田村、三戸部ともに杖道歴は1年余りと浅いが、厳しいけいこを重ねて急速にレベルアップ、見事に全国の頂点に上り詰めた。（大野篤志）

初段の部で全国の頂点に立った田村浩志（左）と三戸部良太

猛げいこで急成長

道大会での敗戦で発奮

杖道　長さ4尺2寸1分（128㌢）、直径8分（2・4㌢）の白カシの杖を使用し、攻撃よりも変化に応じて相手を制圧することを目的としている。試合は、2人が2刀（うちだち）に分かれ、姿勢や気合いなどを競う。日本剣道連盟HP

全日本大会は初段から七段までの7部門に分かれて実施。四段以上が決勝を行い、初段―三段は決勝を行わず優勝に代わって2組に優秀賞が贈られる。田村・三戸部組は4試合を戦い、勝ち抜いた。初の全国大会に不安を感じていたものの、初戦を突破して三戸部は「北海道のレベルの高さを感じた」と落ち着き、田村も「2度大きなミスをしたが、カバーし合うことで乗り越えることができた」と冷静さと2人の呼吸、間が優秀賞を引き寄せた。

田村は剣道教士七段で全十勝剣道連盟副理事長を務め、三戸部も帯畜大時代に田村の師事を受け剣道三段と剣道歴は長い。2人とも居合道も行っており、同じく剣道、居合道とともに杖道にも取り組んでいる鈴木部会長（六段）の演武に魅せられ昨年から杖道に入門。これまで十勝では個人的に行われてきた杖道だが、11人に増えたことで6月に部会として正式に発足。毎週1回、練習を行っている。

今年6月、北海道杖道大会（施）の初段の部が、三戸部は優勝、三戸部も決勝でともに敗（稚内）に敗が付いた。全ジしたい」と向けた鈴木「細かな部分を得してくれるという厳しいも越え、結果に

三戸部は「道の魅力を語の入りや気合単なようだが心を強める。くしての好成鈴木部会長はがなくても始にも杖道を広を見せている。1、3、5金土曜日の午後武館道場（帯2）で練習を

かちまいスポーツ

来季の道東リーグ昇格を決めた帯広蹴球団

帯広蹴球団道東リーグ昇格

道リーグサッカー　入れ替え戦で釧路市役所に勝利

【釧路】サッカーの道リーグ道東ブロックリーグ参入戦が26日、釧路市陸上競技場で行われ、帯広地区代表の帯広蹴球団（帯広1部1位）が釧路地区代表の釧路市役所（道東3位）を2―0で破り、来季の道東リーグ昇格を決めた。来季の道東リーグは、R・シュペルブ釧路（道リーグ6位・降格）、とかちフェアスカイジェネシス（道東1位）、マルセイズFC（同2位）、別海サッカークラブ（根室・道東5位）、FC・COSMIC（網走・道東6位）、帯広蹴球団の6チームで実施される。

帯広蹴球団 2（1―0、1―0）0 釧路市役所
▽得点者【帯】○清水康、西川敦②藤井亮平、佐藤寿俊

チャレンジャー精神で戦う

帯広蹴球団の村田光啓監督の話　1年間通して厳しい戦いだったが、選手たちは目標に向かってよくやってくれた。また、今回釧路への移動のバスで配慮していただいた帯広観光をはじめ、選手が勤める企業にも感謝したい。喜びの中にも選手たちはこれからが勝負という気持ちを持ってくれている。道東ではチャレンジャー精神で1戦1戦大事に戦っていきたい。

ジュニアオリンピック陸上

走り幅跳び増子18位

十河は砲丸投げ44位

陸上競技の第39回ジュニアオリンピック大会（日本陸上競技連盟主催）が24―26の3日間、横浜市の日産スタジアムで行われた。十勝から出場した男子A（14歳以上15歳未満）八百㍍の松木智雅（緑南）は予選敗退、女子B（13歳以上14歳未満）砲丸投げの十河由衣（池田）は44位、同C（13歳未満）百㍍障害の田中芽衣（帯南町）は準決勝で敗退、同走り幅跳びの増子詩織（帯八）は18位だった。なお、北京五輪女子百㍍代表の福島千里（北海道ハイテクAC―帯南商高出）が今大会のプレゼンテーターを務めた。（関係分）

【男子】＜A＞◇八百㍍▽競技連盟主催）が24―26の3日間、横浜市の日産スタジアムで行われた。十勝から出場した男子A（14歳以上15歳未満）八百㍍の松木智雅（緑南）は予選敗退、女子B（13歳以上14歳未満）砲丸投げの十河由衣（池田）は44位、同C（13歳未満）百㍍障害の田中芽衣（帯南町）は準決勝で敗退、同走り幅跳びの増子詩織（帯八）は18位だった。なお、北京五輪女子百㍍代表の福島千里（北海道ハイテクAC―帯南商高出）が今大会のプレゼンテーターを務めた。（関係分）

【男子】＜A＞◇八百㍍▽

【B女子砲丸投げ決勝】9㍍16の投てきを見せた十河由衣（池田中、大賀章好カメラマン撮影）

【C女子走り幅跳び決勝】4㍍81で18位となった増子詩織（帯八中、大賀章好カメラマン撮影）

予選1組＝⑦松木智雅（緑南）2分2秒54
【女子】＜B＞◇砲丸投げ▽決勝＝⑭十河由衣（池田）9㍍16
＜C＞◇百㍍障害▽予選3組＝③田中芽衣（帯南町）16秒44▽準決勝2組＝田中失格◇走り幅跳び▽決勝＝⑱増子詩織（帯八）4㍍81

陸上日本選手権リレー

木田、チーム優勝に貢献

陸上競技の第92回日本選手権リレー競技大会（日本陸上競技連盟主催）が24―26日に横浜市の日産スタジアムで行われ、女子千六百㍍リレーで木田真有（26）＝福島大―帯南商高出＝が1走を務めたナチュリル（木田、吉田真希子、松田薫、丹野麻美）が3分38秒13のチームベストで優勝した。また、男子千六百㍍リレーで白樺学園高出身の佐々木康尊が1走を務めた北海道東海大（佐々木、中塚省也、野月聡志、古内貴大）は予選5組の7位だった。

社会人アイスホッケーAプール

鳥せい御影クラブ決勝へ

清水大会

【清水】アイスホッケーの社会人Aプール清水大会は28日午後9時から、清水町アイスアリーナで準決勝の1試合を行い、鳥せい御影クラブが御影クラブOBを22―1で破って決勝に進出した。29日は午後9時から同アリーナでタダノ―竹田電気ウラホロの準決勝を行う。

鳥せい御影クラブ 22（8―0、11―1）1 御影クラブOB
▽得点者【鳥】①竜川→神前→近藤（1P5分16秒）②高橋→神前→竜川（1P12分47秒）③岩波脩→高橋→門木（1P17分53秒）④岩波脩→谷昌（2P12秒）⑤澤山→蜂屋→関崎（2P1分16秒）⑥蜂屋→川平→関崎（2P6分22秒）⑦川平→蜂屋（2P8分57秒）⑧関崎→澤山→近藤（2P9分12秒）⑨竜川→光井→谷真（2P13分32秒）⑩蜂屋→関崎→澤山（2P15分53秒）⑪門木→高橋→谷昌（2P17分25秒）⑫岩波脩→高橋（3P32秒）⑬門木→岩波脩（3P1分57秒）⑭蜂屋→川平（3P2分36秒）⑮高橋（3P5分7秒）⑯川平→蜂屋（3P6分12秒）⑰谷昌→岩波脩→高橋（3P8分32秒）⑱梅森→関崎（3P9分33秒）⑲澤山→梅森→川平（3P11分13秒）⑳竜川→谷昌（3P12分31秒）㉑澤山→蜂屋（3P14分58秒）㉒梅森→川平（3P15分45秒）
【御】①村井→梅森（3P1分10秒）
▽反則【鳥】5（岩波僚2、光井、高橋、門木）【御】1（谷）
▽シュート数【鳥】92（30、38、24）【御】22（5、10、7）
▽審判＝笹村幸、木村、笹村和

小学3、4年生7チームしのぎ

帯信金アイスホッケー開幕

【清水】アイスホッケーの第4回帯広信用金庫杯争奪PeeWee大会（清水町アイスホッケー協会主催）が25日、清水町アイスアリーナで開幕した。小学3、4年生を対象にした大会で、7チームが12月7日まで総当たりのリーグ戦を繰り広げる。

清水御影 4（1―2、1―0、2―0）2 広陽稲田・幕別

◆第15回財団杯女子アイスホッケー大会（28日・帯広の森アイスアリーナ）

レッドレジャー（2勝1敗）20（7―0、9―1）1 Twin klesレッド（4敗）
▽得点者【レ】①五十嵐（1P1分2秒）②渡部な（1P4分59秒）③馬渕美（1P6分26秒）④五十嵐→池田→久野（1P14分10秒）⑤馬渕美（2P6分47秒）⑥久野→池田（2P9分11秒）⑦桑井→池田（2P9分43秒）⑧渡部な（2P9分47秒）⑨馬渕美（2P12分56秒）⑩池田（2P13分18秒）⑪馬渕裕→桑井（2P13分59秒）⑫池田（3P38秒）⑬久野→馬渕裕（3P56秒）⑭馬渕美（3P9分53秒）⑮渡部あ→久野（3P11分4秒）⑯五十嵐→馬渕美（3P11分54秒）⑰久野（3P13分10秒）⑱新津→池田（3P17分49秒）⑲久野→馬渕裕（3P18分57秒）⑳池田→渡部な（3P19分49秒）
【T】①鶴野→赤間（3P10分21秒）
▽反則【レ】0【T】1（桑谷）
▽シュート数【レ】94（25、31、38）【T】10（4、2、4）
▽審判＝阿久津、廣川、若宮

▽得点者【清】土橋2、國家、廣田
【広】伊藤、貝瀬
▽反則【清】1（廣田）【広】0
▽シュート数【清】22（14、4、4）【広】16（6、6、4）
▽審判＝三輪、高野、中田

浦幌 7（1―0、5―0）0 音更町・チェスコ
▽得点者【浦】中田5、鳴海、工藤
▽反則【浦】2（野村、佐藤）【音】0
▽シュート数【浦】49（16、16、17）【音】12（4、3、5）
▽審判＝合真、中河、大澤

開西 16（5―0、6―1）1 啓西スマイラーズ
▽得点者【開】石田5、清水4、長原3、池田、笄井、熊谷、安井
【啓】森本
▽反則【開】1（清水）【啓】4（玉川2、水崎、阿部）
▽シュート数【開】74（24、19、31）【啓】9（3、2、4）
▽審判＝合真、石井、國家

全日本杖道大会　初段の部

全十勝剣道連盟杖道部会

田村三戸部組優秀賞

緊迫感あふれるけいこを繰り返す田村（左）と三戸部良太

初段の部で全国の頂点に立った田村浩志（左）と三戸部良太

第35回全日本杖道（じょうどう）大会（全日本剣道連盟主催）がこのほど、東京・巣鴨学園ギムナシオンで行われ、初段の部に初出場した全十勝剣道連盟杖道部会（鈴木清志部会長）の田村浩志（49）・三戸部良太（25）組が優勝に相当する優秀賞を受賞した。田村、三戸部ともに杖道歴は1年余りと浅いが、厳しいけいこを重ねて急速にレベルアップ、見事に全国の頂点に上り詰めた。（大野篤志）

猛げいこで急成長

道大会での敗戦で発奮

全日本大会は初段から七段までの7部門に分かれて実施。四段以上が決勝を行い、初段―三段は決勝を行わず優勝に代わって2組に優秀賞が贈られる。田村・三戸部組は4試合を戦い、勝ち抜いた。初の全国大会に不安を感じていたものの、初戦を突破して三戸部は「北海道のレベルの高さを感じた」と落ち着き、田村も「2度大きなミスをしたが、カバーし合うことで乗り越えることができた」と冷静さと2人の呼吸、間が優秀賞を引き寄せた。

田村は剣道教士七段で全十勝剣道連盟副理事長を務め、三戸部も帯畜大時代に田村の師事を受け剣道三段と剣道歴は長い。2人とも居合道も行っており、同じく剣道、居合道とともに杖道にも取り組んでいる鈴木部会長（六段）の演武に魅せられ昨年から杖道に入門。これまで十勝では個人的に行われてきた杖道だが、11人に増えたことで6月に部会として正式に発足。毎週1回、練習を行っている。

杖道　長さ4尺2寸1分（128㌢）、直径8分（2・4㌢）の白カシの杖を使用し、攻撃よりも変化に応じて相手を制圧することを目的としている。試合は、2人が1組となり、打太刀（うちだち）、仕杖（しじょう）に分かれ規定の形を演武し、姿勢や気合、正確な打突、間合いなどを判定する。（全日本剣道連盟HP参考）

今年6月、札幌で行われた北海道杖道大会（個人戦で実施）の初段の部で田村は準優勝、三戸部も3位と健闘したが、三戸部は準決勝、田村は決勝でともに23歳の畠山温子（稚内）に敗れたことで「火が付いた。全国大会でリベンジしたい」と発奮。全国大会に向けた鈴木部会長の指導は「細かな部分までなかなか納得してくれない」（田村）という厳しいものだったが乗り越え、結果につなげた。

三戸部は「形武道であっても勝負の臨場感がある」と杖道の魅力を語る。田村も「腰の入りや気合で差が出る。簡単なようだが難しい」と探求心を強める。部会発足間もなくしての好成績を喜びながら鈴木部会長は「他の武道経験がなくても始められる。十勝にも杖道を広げたい」と意欲を見せている。杖道部会は第1、3、5金曜日と第2、4土曜日の午後6時から帯広尚武館道場（帯広市白樺16条東2）で練習を行っている。

フェアスカイジェネシス活動紹介

宇都宮氏のルポ「股旅フットボール」

「J」目指す地域チームの夢や苦悩描く

フットボール専門ライター、宇都宮徹壱氏がJ昇格を目指して活動する国内地域リーグ所属のチームを紹介したルポ「股旅（またたび）フットボール―地域リーグから見たJリーグ『百年構想』の光と影」（東邦出版・税込み1500円）がこのほど発刊され、帯広・十勝からJへの夢を描くとかちフェアスカイジェネシスが紹介されている。

同書は、宇都宮氏が2005年から07年までサッカー専門雑誌「サッカーJ+」（エンターブレイン発行）に連載していた同タイトルのルポを大幅に加筆・修正し一冊にまとめたもの。

長年、ヨーロッパを中心に各国のトップリーグから下部リーグや大会を取材し、フットボールを通して地域性や文化、歴史、民族性などを紹介してきた宇都宮氏が、今回、国内のJ1、J2、JFLの全国リーグに次ぐ〝4部〟に相当する9つの地域リーグに注目。Jへの意欲や期待の一方、いろいろな壁にぶつかるなど苦悩もあり、Jリーグが提唱する「百年構想」の最前線にいるチーム、人々の姿が浮き彫りにされている。

フェアスカイについては、第10章「北の大地で種蒔（まく）人々」で取り上げられた。2007年北海道リーグのノルブリッツ北海道FCとともかちフェアスカイジェネシスに焦点を当て、連覇を続けるノルブリッツと残留の危機にあるフェアスカイ（06、07年の2季所属。08年は道東リーグへ降格）という対照的な2チームのそれぞれのJへの夢に前向きに取り組んでいる姿を紹介している。

フェアスカイの菖蒲友幸代表は「取り上げてもらい大きな励みになっている。将来へ向け何かを残していくことが自分たちの役割だと思う」と話している。（大野篤志）

とかちフェアスカイジェネシスの活動が取り上げられた宇都宮徹壱氏の「股旅フットボール」

スポーツはじめよう

あす健康体操体験会開催

清柳スポーツクラブ（上田杜哉会長）は30日に光南福祉センター（帯広市東7南21）で健康体操無料体験会を開催する。参加者を募集している。

午前10時―同11時半まで。募集人数は30人程度。帯広市保健福祉センターの長谷川昌二氏（健康運動指導士）の指導の下、独自のエアロビクス〝オビロビ〟、ラダーを使った歩行、ボールを使った運動、ストレッチなどを自分の体調に合わせて行う。通常は会員100円（非会員300円）が必要となるが、今回は無料で体験できる。

持参するものは飲料水のみ。参加希望者は当日、動きやすい服装で会場に足を運べばよい。問い合わせは同クラブ事務局（26・8910）へ。

記録の速報は▼kachimai.mobi　Eメール▼sports@kachimai.co.jp
写真がほしい▼TEL0120-25-9410　ファクス▼0155-25-2700